

2022年
第4回
町田市議会
定例会報告

市民合意と道理のない 「芹ヶ谷公園パークミュージアム計画」は 市民参加で再検討を!

日本共産党町田市議団



〔(仮称)国際工芸美術館イメージ図〕2022年5月、説明会資料より

さらに増える工事費
44億8千万円に!

(仮称)国際工芸美術館実施設計において、当初の工事費28億6千万円が資材高騰等の影響で6億6千万円増額になり、減額分を引いても4億

町田市議会2022年第4回定例会が、11月30日～12月23日まで開催されました。共産党が提出した「大軍拡の中止を求める意見書」は、自民、公明などの反対で否決となりました。「町田市個人情報保護施行条例」など関連条例の「改正」について共産党は、個人情報保護を市独自の「条例」の「骨抜き」になるとして反対しましたが、多数で可決しました。

8千万円増え、一体的整備の費用総額が44億8千万円に膨れ上がることで、文教社会常任委員会の行政報告で明らかになりました。

樹木と土壌が削られた斜面地に
建築意匠のない「ハコモノ」が

(仮称)国際工芸美術館は、500本の樹木とダンプ1800台分の土壌を削った斜面地に造ります。大雨時には美術館の収蔵庫を「土留め」にする、と。芹ヶ谷公園を生かして設計した国際版画美術館とは違い、自然を壊してまで建築意匠(芸術性)のない「ハコモノ」をつくる必要があるのでしょうか。

近隣住民は「計画」に反対、対案!
市民の声を聞こうとしない市長

(仮称)国際工芸美術館建設の建築審査会に対する近隣住民のほとんどが市の「計画」に反対で、「『がけ地』から平地へ移してほしい」と要望しています。ところが、石阪市長は、こうした市民の声に耳を傾けようと

せず、一体的整備の「計画」を見直そうとしません。市民の理解と合意のない「計画」は認められません。

芹ヶ谷の自然と版画美術館活かし
市民、専門家とともに「計画見直し」を

芹ヶ谷公園は、太古の時代から人間が住み続けてきた水と緑の谷戸の風景が残る「風致公園」です。そこに建てられ、市民とともに歴史をつくってきた国際版画美術館は世界に誇れるミュージアムです。市民の理解が得られない「現計画」は白紙撤回し、市民や専門家がもつ豊かな知恵と創造力を活かした後世に残る芹ヶ谷公園像を再検討すべきです。



南三小廃校計画見直しを!

請願は継続

「町田市立南第三小学校廃校見直しを求める請願」が1946名の署名とともに出され、文教社会常任委員会で審議されました。請願者から、統合対象校から一番遠い地域を1500軒訪問し、その85%が廃校に反対の意見であること、住民は学校の存続を求めているという資料が提出されました。田中美穂市議が、こうした地元の声をどう受け止めているのかと質問、新たな学校づくり推進課長は「統合校から距離が遠い地域でこうした声が出るのは、致し方ない」と住民の願いに背を向ける答弁。請願は継続審査となり、次の議会で審議されます。採択されるよう、引き続き力を尽くします。

町田市への児童相談所設置へ一歩

町田市は、公共施設再編計画に基づいて、木曽東の教育センター施設の複合化について「子ども・子育てサポート等複合施設整備基本計画(素案)」をまとめ、市民意見を公募しました。この施設は、子ども・子育てに関するサービスの提供の拠点と地域の利便性と賑わいを創出することを目的として、これまでの「教育センター」「子ども発達センター」「子ども家庭支援センター」などが整備される方針です。また、この施設の中に都立の児童相談所も誘致することが盛り込まれました。

現在は、八王子児童相談センター(以下児相)が町田市を担当していますが、地域も広く人口も多いため、町田への児相設置は市民の長年の要望であり、日本共産党も求めてきました。東京都は多摩地域の児相の管轄区域の見直しを行っていましたが、この度、町田児相が新設される等の見直し案が市長会に示されました。

